

## 産業メンタルヘルスに関わる皆さまに

うつ病、自殺対策、新入社員の離職など、現代社会において心理的ケアは重要課題となっています。しかし、職場におけるメンタルヘルス対策をどのように進めていけばよいのか、その実効性をどのようにすれば上げられるのか、試行錯誤が続いています。京都文教大学産業メンタルヘルス研究所では、こうした社会的要請に応えるべく、2009年に「産業心理臨床家養成プログラム」を開設しました。

プログラムの講師には、この分野における国内第一級の専門家に加わっていただき、産業界面で有効な心理臨床の技法、産業精神保健に関する知識を網羅的に学ぶことができます。また、心理職だけでなく、看護師、保健師、精神保健福祉士、企業人事労務担当者など、さまざまな職種の方にも受講いただき、他職種間の情報交換や学び合いが実現できるよう工夫してまいります。関心をお持ちの方々への積極的な参加をお待ちしております。

## プログラムについて

このプログラムでは、年間20週40コマの講義を2年間受講していただき、産業メンタルヘルスに関する知識を、基礎的なものから実践的なものまで網羅的に学んでいただきます。内容のレベルは、臨床心理士資格を持つ者から資格取得見込み者(大学院修了者)までを対象としたものとなっています。受講対象者には、心理学的知識を補足する特別講義を用意するなど、産業界で健康管理業務を担当する保健師・看護師、人事労務スタッフ、産業カウンセラーや大学院在籍者にも受講いただけるようにしております。

## 「プログラムの応募概要」

**定員** 10名程度

**募集対象** 産業精神保健分野での活躍を目指す方

**資格審査** プログラムへの参加に際して資格審査を行います。

●**一次審査 書類選考**  
応募時に提出していただく書類、履歴書で産業メンタルヘルス領域での活動歴、メンタルヘルスに関する学習歴、臨床心理士、公認心理師などの資格の有無(資格取得見込みを含む)等を確認します。  
また、組織・団体からの推薦文も参考にします。

●**二次審査 面接**  
産業界での活動経験、産業心理臨床への関心などについて質問します。

**審査申込締切** 2021年4月30日(金)

**申込方法** 下記のホームページで詳細をご確認ください。  
[https://www.kbu.ac.jp/kbu/mental\\_lab/](https://www.kbu.ac.jp/kbu/mental_lab/)

## 産業心理臨床家養成プログラムの概要

**期間** 2年(6月より開講、翌々年の3月修了)

**受講料** 年間 150,000円  
●講義、グループ・スーパーバイジョン(グループ形式の授業)を年間20週40コマ開講。

●対面開催の場合は、キャンパスプラザ京都講義室、京都文教大学で開講。

●プログラムの修了者には、修了認定証を交付。

**開講曜日** 土曜日(午後) 講義・演習(2コマ)

●1コマ=1時間30分  
※講義内容によって、集中形式で行われる場合があります。

お問い合わせ

京都文教大学 産業メンタルヘルス研究所

〒611-0041 京都府宇治市横島町千足80番地

E-mail:sangyou-kbu@po.kbu.ac.jp

産業精神保健分野で活躍を目指す方々



# 産業心理臨床家 養成プログラム

2021

京都文教大学  
産業メンタルヘルス研究所

Kyoto Bunkyo University



『企業研究基礎論』

藤原 淳二：産業メンタルヘルス研究所 元副所長  
藤村 マネー・ジェームス サポート 代表  
正弘：藤村マネー・ジェームス サポート 代表  
企業を理解するために、成り立ち、組織風土、経営などについて概説する。そして、中小企業における今日の経営課題について解説する。

『産業・組織心理学』

金井 篤子：名古屋大学大学院 教育発達科学研究所 教授  
産業・組織領域における活動に不可欠な産業・組織心理学の基礎的な知識を学ぶ。

『産業精神医学』

夏目 誠：大阪樟蔭女子大学 名誉教授  
産業心理臨床に必要な精神医学の知識について概説する。難しい領域だが事例から、ポイントをわかりやすく説明し、現場で活用できるようにする。

『産業心理職の役割』

森崎 美奈子：産業メンタルヘルス研究所 元所長  
産業心理職に必要な法相やスキルを紹介する。又、事例を通じて、職場のメンタルヘルス活動での心理職の役割を学ぶ。

『キャリアデザイン論』

伊東 眞行：関西大学臨床心理専門職大学院 講師  
外的キャリアや内的キャリア、キャリアアンカー、職業適性などキャリア心理学の観点からメンタルヘルス問題を検討する。

『産業領域における高次脳機能障害学Ⅰ』

中島 恵子：京都文教大学大学院 臨床心理学研究科 教授  
高次脳機能障害を神経心理学視点から理解することで、職場復帰に必要な知識から適切な障害者への介入が可能となる。Ⅱでは、高次脳機能障害にはどのような障害があるか、それぞれの障害特性を理解し支援する方法について学ぶ。

『力動的組織病理論』

川畑 直人：京都文教大学大学院 臨床心理学研究科 教授  
機能不全を引き起こす組織の病理をどのように理解することができるのか、基本的枠組みを提供する。

『企業におけるハララスメントの現状と対策』

福尾 和泉：(株)クオレ・シー・キューブ 執行役員  
企業におけるハララスメントの実態と動向を学び、発生時の対応や予防教育についてさまざまな事例を参考にしながら予防対策を考える。

『認知行動療法』

正木 大貴：京都女子大学 現代社会学部 教授  
認知行動療法の基本理念を概説したうえで、実際にセルフモニタリングやロールプレイの経験を通して、アセスメントの技法について学ぶ。

『EAP展開技術論』

市川 佳居：(一社)国際EAP 協会日本支部 理事長  
EAP(Employee Assistance Program)を 実際に展開するために、どのような事業を展開していけばよいか、起業モデルを提起する。

『職場で活かせる芸術療法』(九分制統合絵画法)

森谷 寛之：京都コロラージュ療法研究所 所長  
職場で役立つ心理技法として、筆者が開発した九分制統合絵画法を紹介する。自己紹介、ストレス、パワハラ、過去のまどめ、将来のビジョン、設計、家族関係など工夫次第で多彩に応用できる。

『コーチング論』

川畑 直人：京都文教大学大学院 臨床心理学研究科 教授  
コーチングを心理療法との連続体で考えるExecutive Coachingの考え方をともに、演習を交えながら実践の在り方を学んでいただく。

『管理監督者への研修・コンサルテーション』

種市 康太郎：桜林大学 リバラルアーツ学群 教授  
この講座では、管理職研修とコンサルテーションを例に、管理監督者への関わり方について座学と演習で学ぶ。

『障害を持つ労働者と職場への支援』

三宅 美樹：(株)トヨタ車体研究所 臨床心理士/公認心理師  
障害(身体・内部・知的・精神・発達)をもつ労働者の就業支援と、雇用している組織への定着支援について、心理職の役割を学ぶ。

『危機介入の組織的対応』

廣川 進：法政大学 キャリアデザイン学部 教授  
災害、自殺、惨事ストレスなど職場で起こる危機状況にどのような心理的援助が可能なかを検討する。

『事例演習』事例演習を通して適切な支援や人事労務対策のあり方を習得する。

『特別実践指導』産業領域での研修場面を想定した演習を行い、相互に検討し合うことにより実践力を高める。

『人事管理・人材開発』

藤原 淳二：産業メンタルヘルス研究所 元副所長  
企業において人事管理や人材開発はどのように行われているのか、基本的な知識を得る。

『経営学基礎論』

渡辺 峻：立命館大学 名誉教授 経営学博士  
産業領域での活動で役立つ経営学の基本的知識を解説する。組織診断や研修立案の補助知識を提供する。

『労働安全衛生学』

森川 次郎：一般財団法人 京都工場保健会 理事  
事業場における産業保健の法的背景や活動の概要を紹介するとともに、メンタルヘルス不調者の支援や一次予防の取り組みなどについて、産業医業務の実例や産業スタッフの連携等を事例を通して説明する。

『産業心身医学』

山本 和美：医療法人弘正会西京赤十字病院内科 臨床心理士  
職場におけるストレス関連疾患の心身医学的理解およびマインドフルネスなど心身両面からのアプローチを学ぶ。

『サーヴェイ・リサーチ技法論』

大庭 さよ：VISION PARTNER メンタルクリニック 四谷 アドバイザー  
企業におけるメンタルヘルスの実情を調査するための技術や結果の報告技術について検討する。

『ストレスチェック論』

大庭 さよ：VISION PARTNER メンタルクリニック 四谷 アドバイザー  
労働安全衛生法の改正により、50人以上の事業場においてはストレスチェックの実施が義務付けられている。産業心理臨床家はストレスチェックにどのような関わり方があるのか、必要なスキルと実際について学ぶ。

『エグゼクティブ・カウンセリング論』

市川 佳居：(一社)国際EAP 協会日本支部 理事長  
経営トップに対するカウンセリングに必要となる知識技術を解説する。

『臨床アセスメント面接論』

川畑 直人：京都文教大学大学院 臨床心理学研究科 教授  
面接技術のなかでも、特にアセスメントに焦点を当て、心理療法、コンサルテーションにも役立つ面接技術の向上を目指す。

『産業領域における高次脳機能障害学Ⅰ』

中島 恵子：京都文教大学大学院 臨床心理学研究科 教授  
病気や事故などが原因で起こる高次脳機能障害の理解を深め、どのような支援が可能か、神経心理学の立場から検討する。Ⅱでは、脳機能の動きを理解し、脳から見る視点を学ぶ。

『組織心理コンサルテーションの技術』

松本 寿弥：名古屋大学 学生支援センター 講師  
組織で生じる様々な問題に対して、心理的な観点からコンサルテーションを行っていくための基本的な技術について、演習を含めながら解説する。

『職場のメンタルヘルス対策』

山根 英之：一般財団法人 京都工場保健会 専任カウンセラー  
産業分野に関わる心理臨床家に求められる役割や事業場におけるメンタルヘルス対策の整理を、メンタルヘルス対策の進め方のポイントや自給予防対策について事例を通して検討する。

『メンタルヘルスのための職場環境改善』

山根 英之：一般財団法人 京都工場保健会 専任カウンセラー  
健康でいざいとした職場づくりを目指す取り組み事例を紹介するとともに、参加型職場環境改善の演習を通して、集団への関わり方について検討する。

『身心相関とストレスマネジメント』

濱野 清志：京都文教大学大学院 臨床心理学研究科 教授  
東洋の伝統的的身体技法を用いて心の健康管理、ストレスマネジメントに不可欠な身心相関について体系的に学ぶ。

『グループワーク技法論』

辰日 朋子：京都産業保健総合支援センター 産業保健相談員  
メンタルヘルス研修など、企業での研修は集団で実施されることが多い。それらに必要なスキルとなるグループワークの技法を習得する。

『復職支援プログラム論』

片桐 陽子：栄仁会 京都駅前メンタルクリニック 臨床心理士  
復職者をどのように受け入れ、復帰を支援するのか、様々なプログラムの例を挙げながら解説する。